担当教員授業題目	臨海実習（埼玉大学）					担当教員	弥益 恭，小林哲也，坂田一郎，津田佐知子
英文授業名	Marine Biology with Laboratory Work					副担当教員	
単位数	1	講義期間	通年集中	曜日・時限	集中・8～9月	対象学年	3
授業形態	実習	備考					

(1)授業のねらい（到達目標）

海産無脊椎動物をスケッチし、動物の分類と同定を行うことで、動物の系統分類に関する理解を深める。また、ウニなどの発生の観察を通して動物発生の基礎を学習する。

(2)授業の概要

臨海実験所にて、磯採集、灯火採集、プランクトン採集などを行い、採集した海産無脊椎動物を観察しスケッチする。さらに、その動物の同定と分類を行う。また、海産無脊椎動物の発生を観察する。

(3)授業計画（第2部は9月25日～27日に実施予定）

第１部 大学における分類の基礎実習Ⅰ

大学において実習の概要と日程について説明する。また、実際にスケッチと分類を行い、実習の進め方を解説する。

第２部 臨海実験所における分類実習と発生実習

臨海実験所にて、海産無脊椎動物のスケッチと同定及び分類を行う。実習期間中には、動物の生息環境に注目しながら磯採集を、夜には灯火採集を、さらに、船を利用したプランクトン採集なども行う。

また、ウニなどを用いた受精と発生の観察とスケッチ、基本的な発生生物学実験を行う。

第３部 大学における分類の基礎実習Ⅱ

大学においてスケッチした動物を系統的に分類し整理する。

＊注意事項：数多くの動物をスケッチし同定するため、実習は長時間を要する。磯は危険な場所もあるので、採集の際には、ぬれても良い運動靴や長靴を履き（サンダルは不可）、慎重に行動すること。軍手、懐中電灯、ケント紙、2H の鉛筆、色鉛筆は必需品である。

(4)成績評価の方法

実習への取り組み方、提出したレポートの成績により総合的に評価する。

(5)履修上の注意

動物系統学及び動物発生学を含む基礎的な専門科目を履修済みであることが望ましい。

８月～９月（本年度は左記）に、東京大学附属三崎臨海実験所を利用し２泊３日の臨海実習を行う。実験所滞在費（宿泊費・食費）は自己負担（約８千円程度）となる。その他に、現地までの交通費などが必要となる。

(6)質問，相談への対応

質問・相談は電子メールで受け付けます。

tkoba@mail.saitama-u.ac.jp（小林），

kyamasu@mail.saitama-u.ac.jp（弥益）（@を半角にして下さい）

＊注意：担当及び内容が変更される場合もあるので、事前に問い合わせください。

【教科書】使用しない。

【参考書】「ギルバート発生生物学」（阿形・高橋 訳、メディカルサイエンス）」、「新日本動物図鑑」（岡田 要・内田清之助・内田 亨；北隆館）、「原色日本貝類図鑑」（保育社）、「日本海洋プランクトン図鑑」（保育社）など。